

少人数教育の充実に向けた取組

【県北教育事務所】

学 校 名	二本松市立安達中学校
学年・教科等	第1学年・英語、第2学年・数学

「あ・だ・ち・中」の学び

望ましい学級・学習集団を基盤とした協同で認め学び合う学習活動

取組の内容



1 少人数指導の計画等

- (1) 少人数学級のよさを生かし、一人一人の願いや実態を適切に把握し、意欲的に取り組む学級・学習集団づくり
 - ・Q-U検査の分析と活用
 - ・学び合い活動の充実
 - ・英語(1年)、数学(2年)におけるTTによる指導
- (2) 自分の思いや考えを伝え合い深め合う学習活動：「あ・だ・ち・中」の学び
 - 「あつ」と疑問や興味をもたせる学習課題の設定
 - 「だとしたら」という主体的な学習活動を促す工夫
 - 「ちがう、同じだ」など、他と考えを共有する思考活動を促す手立て
 - 「中心となる学習は何か」を振り返り、まとめさせる工夫

2 実践の概要

- (1) Q-U検査結果の分析についての研修会の実施と学級づくりへの取組

5月 (〇年〇組)

学級生活満足群	63%
侵害行為	0%
非承認群	17%
学級生活不満足群	21%

・ 学校行事に向けた個人の目標やクラス目標の話し合い
 ・ 非建設的な行動に対しては個々に話す機会を設け、認めるときにはみんなの前で称賛

10月 (〇年〇組)

学級生活満足群	71%
侵害行為	8%
非承認群	8%
学級生活不満足群	13%

- (2) TTによる指導

本校では、一人一人の生徒に成就感を味わせるとともに、学習意欲を高め、学習内容の確実な定着を図るために、次の指導形態や留意点を意識してTTによる指導を行う。

① 指導形態

授業内容や生徒の実態に応じて、指導形態を教師間で打ち合わせて実施する。

- ・ T1が一斉指導を行い、T2が個別指導にあたる。
- ・ T1とT2と一緒に一斉指導を行う。
- ・ 小集団を編成し、T1とT2が別々に指導する。

② 授業における工夫・留意点

- ・ 生徒とのやりとりを意識的に増やす。生徒の応答内容にふさわしい反応やコメント、称賛と励ましを行う。
- ・ 言語活動中に生徒の中に入り、細かな注意やチェックを行う。また、言語活動中の生徒の「つぶやき」を拾い、全体に広め指導に生かす。
- ・ 机間指導を繰り返し、採点・訂正を小まめに行う。さらに、発展課題を準備しておき生徒の学習速度差に対応できるようにしておく。

- (3) 「あ・だ・ち・中」の学びに向けての実践例

<p>㊦：学習課題の設定 【課題の視覚的提示や普段の生活への関連付けへの配慮】</p> <p>3年数学「安達中学校の校庭に縦100m、横70mのサッカーコートを作れるだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校庭の上空からの撮影写真（縮尺が分かる情報を含む写真）を提示する。 <p>〈生徒の反応や教師の関わり〉</p> <p>縮尺を知る手がかりを得ようと、生徒は主体的に取り組み、見通しを基にして課題を把握することができた。生徒の日常生活を観察し、生徒が抱えている疑問や関心から課題の設定をすることは、学習意欲を高めるのに効果的であった。</p>	<p>3年理科「道具を使えば重い荷物を持ち上げる仕事は小さくなるだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が重い荷物を持ち上げる様子を観察させるとともに実験に必要な道具を提示する。 <p>〈生徒の反応や教師の関わり〉</p> <p>教師が演示したことに取り組みせ、実際に重い物体を使用したことで、生徒は、班で協力して測定しようとする主体的に活動していた。身近な日常生活の場面を課題設定に取り入れたことは、生徒の学習意欲を高めるのに効果的であった。</p>
--	--

<p>㉔：主体的な学習活動の促進 【課題解決へのスモールステップ化や既習事項の振り返りへの配慮】</p> <p>2年国語「立場と根拠を明確にして、自分の意見と他者の意見とを交流する。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見の明確化→反論を付箋に記入→付箋内容を基に自分の意見を再構築する。 <p>〈生徒の反応や教師の関わり〉</p> <p>自分では気付かなかった意外な点が見えてきたり、逆に自分の意見に足りないものに気付いたりして、自分の考えを深めていくことができた。教師が一人一人の考えを見取り、意図的にペアを組ませることにより学習を活性化させることができた。</p>	<p>2年英語「接続詞 if を使って、友達とリレー作文を完成させる」</p> <ul style="list-style-type: none"> モデル文作成を全体で行うことで、課題解決への見通しと活動への意欲を高める。 <p>〈生徒の反応や教師の関わり〉</p> <p>既習事項の振り返りを確実にを行うとともに、作成方法を学級全員で確認したので、見通しをもって課題解決に取り組んでいた。見通しがもてることにより、自分のアイディアが豊かにわき上がり、英語で自分の考えを表現する態度につながった。</p>
--	--

<p>㉕：考えを共有する思考活動 【予想活動や再生活動、共有形態の選択への配慮】</p> <p>2年数学「星形五角形の先端の角の和はいくつになるだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 他のグループの考え方について、図を示して考えさせる。 <p>〈生徒の反応や教師の関わり〉</p> <p>予想活動の際には、既習事項等を基に考えたり、周りの生徒に説明する活動を取り入れ、教師が意図的に生徒の考えを価値付けることで、生徒は新しい物の見方に気づき、思考力や表現力の向上につながることができた。</p>	<p>2年美術「紅白梅図屏風の秘密に迫り、作品のよさを味わう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ミニチュアの屏風を実際に動かしながら、気付いたことを近くの生徒に伝える。 <p>〈生徒の反応や教師の関わり〉</p> <p>屏風を実際に動かすことにより、造形上のトリックや角度を変えて組み合わせると別のつながりが見えることに気付いた生徒の考えを価値付けし、全体に広め共有することで、深く理解させることができた。</p>
--	--

<p>㉖：まとめの工夫 【ねらいの二面性に対応したまとめへの配慮】</p> <p>2年音楽「ベートーヴェンは交響曲第5番の中でどんな工夫をしたのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の感想の中から、本時のねらいにつながる部分を引き出し、全体で共有・吟味し、鑑賞後に再び感想を書かせる。 <p>〈生徒の反応や教師の関わり〉</p> <p>机間指導で同じような感想を記入している生徒を見取り、意図的に指名しながら比較・検討しながら全体で共有・吟味を行うことにより、学習内容の定着を図るまとめを充実させることができた。</p>	<p>3年体育「どうすれば上手にバントゲームができるようになるかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達にアドバイスカードを記入してもらい、自分ができるようになったこと等のよさに気付かせる。 <p>〈生徒の反応や教師の関わり〉</p> <p>小集団で互いのアドバイスを受け入れ、自分の技能を向上させようとする姿が見られた。アドバイスの視点を明確にすることにより、本時で身に付けさせたい力がきちんと身に付いたかどうかを振り返るまとめができた。</p>
--	--

成果と課題

- しっかりとした学級経営が、少人数教育においてもその基盤として必要である。Q-U検査の結果分析を学級担任自らがを行い、望ましい学習集団へと学級を変容させていくことができた。
- 教師が「あ・だ・ち・中」の学びを授業指針として意識することで、少人数教育を一層効果的に推進することができた。生徒アンケートの「友達と協力したり、互いの考えを比べたりして学ぶことができているか」の項目は、83%から90%へ、また「進んで発言したり、質問したりできているか」の項目も、51%から66%へと肯定的な評価が増えている。
- 「協同で認め合う学習活動」により、自分にはなかった考え方や思いつかなかった発想を交流させることができ、思考の深まりが見られた。
- 生徒の発想を重視しながら、試行錯誤する時間・修正する時間を十分に確保できるよう授業を構築しなければならない。また、個々の表現力の差が大きく自分の考えを十分に伝えることができないこともあるので言語活動の充実が課題である。
- TTによる指導においては、習熟度別による指導はまだ行っていない。今後、習熟度別による利点を生かした指導を計画し、実践したい。